



最近の賃銀 値上げ問題

長谷 孝之

本年はいつてから賃銀値上げ問題が急になつた。一月以來労働組合は何派に限りず賃銀値上げ運動を開始したとする指令を發した。賃銀値上げ要求の労働争議は全因るまで展開されつゝある。一方事業主側も亦積極的に値上げ或は昇給特別の繰上げ、日用品廉價の施設を講ずる等種々之が對策に働かしてあることは讀者の既に知せられる處であらう。

では未だ論議されてゐないが、實際問題としてには既に實行されつゝあり、又今後の賃銀引上げ問題については最も大きな要因として来るものと見てをかねばならない。此處に詳細に述べたは持たないが、粉飾とか飲食物の様に女工を主體とする産業、炭坑業、中鐵工業等に於ては既に炭坑業が争奪戦に備へては、賃銀引上げも炭坑業政策は引留策としての意思を持つて實施されてゐるのである。

（二頁下段より）
もつと廣く、國家の内部に於ける各部の反目、對立の調停協和の事業にまで當つて然るべきである。今日、我が國の最大なる時弊は國家の不統一、人心の不安定である。國內非常時だといふので、此有様は何たる不體裁な事よ。之を外國から見たら、何たる出陣力之を失つてゐるを見られるであらう。國民は速かに此時弊に目覺めて、一刻も早く、一致協力して國家の樹立遂行に邁進しなければならぬ。此統一運動の推進こそ、協調會と與へられたる今後の大使命ではなからうか。協調會の徹底こそは、此に於ける唯一の指導精神に外ならないのである。



無産政黨の將來

中川 賢一

今春の總選挙では、社会大衆黨が水際立つて躍進を遂げ、一舉に政友、民政兩黨の間に於て、政界の第三黨たるの地位に進んだので、又再び、無産政黨が新しい意味に於て、論議となつて、世人の関心を惹いて来たやうであつた。

農民組合其他無産階級の間には、今日では戦線統一の傾向が極めて強いので、現在は社会大衆黨と日本無産黨とは相対立してゐる状態であるが、兩黨間に昨年合同問題が擧頭し、目下中絶してゐますが、次第に社会大衆黨を中軸として戦線が統一するのが自明の勢であり、大きな傾向であるものと観られる。

協調とは何ぞや
協調と云ふ限りは、どこ迄も對等の心持で、お互にその相手方の立場を十分認識して、之を行はねばならぬ。そこに協調の實がある生命がある。強い立場にある者が、意見を出して弱い立場の者に對する時、無産黨は協調であつても、其實質は、獨善的であり、強要である。と同時に、弱い立場にある者のみからの主張が、強行される時、其協調は、實質的には、單なる我儘の「徒らなる欺へし」に墮し、見ゆる。

協調とは何ぞや
協調とは何ぞや
協調とは何ぞや
協調とは何ぞや